

医学部共用試験OSCE に模擬患者等として参加することで得るもの

やまね たく

山根 拓、望月 泰男、谷口 智也、生江 麻代、檜山 由香里、香取 尚美、山藤 賢
(昭和医療技術専門学校)

【はじめに】 客観的臨床能力試験（以下OSCE）は、医学生などが臨床実習前に、臨床能力を身につけているかを試す実技試験である。本校では平成15年以来、毎年昭和大学医学部第4学年・第5学年OSCE に模擬患者役（以下SP）、タイムキーパー役などで参加してきた。そこで得たものを学生の視点から報告する。

【対象】 昨年度の参加状況であるが、医学部4年生対象に61名、医学部5年生対象に51名の本校学生が、SP・タイムキーパーとして参加した。模擬患者役として、4年生対象では、頭頸部診察・バイタルサインの測定・腹部診察・神経系診察・基本的臨床手技などに参加。5年生対象では、胸部診察（呼吸器系）・胸部診察（循環器系）・腹部診察・神経学的診察などに参加した。

【結果】 アンケートからは、参加への賛否に関しては、ほとんどの学生が、参加して良かったと回答した。その理由としては、医学生の試験に対する姿勢を知ることが出来た、実技評価の大変さと重要さを感じる事が出来た、自分達が受けている学校でのOSCE の参考になった、などがあげられていた。

【考察】 私達臨床検査を学ぶ学生は、通常の学校生活の中では、医学生の行っているOSCE を実際に見学したり体験するという事はできない。しかし本校では、SP、タイムキーパーなどとして参加することにより、身近でその臨場感を感じることができる。私はこのような経験は大変貴重な経験であると考えている。これは、先輩方から繋がってきていることであり、その現場での本校学生の真摯な姿勢が、昭和大学からも評価されているので、毎年依頼が来るということであると、先生方、先輩方からも聞いている。本校でも、2年次、3年次とOSCE が実施されている。私達が受けるOSCE にもこの経験は生かされ、また私達が参加したこの経験はまた後輩にも受け継がれる。OSCE が医師国家試験、また臨床検査技師国家試験に導入されるようになるには、まだ時間はかかるかもしれないが、この経験は私達の医療人としての素地を高めるものとして、今後も学校で続けてもらいたいと思っている。